

自動車リユース・リビルト部品普及システムの構築に関する研究

題目

資源循環システムのライフサイクルアセスメントに関する研究
～BAS評価ソフトの改良と広域化対応システムの評価～

著者

小野田弘士、永田勝也、切川卓也、根岸貴紀、山本祐司

目的

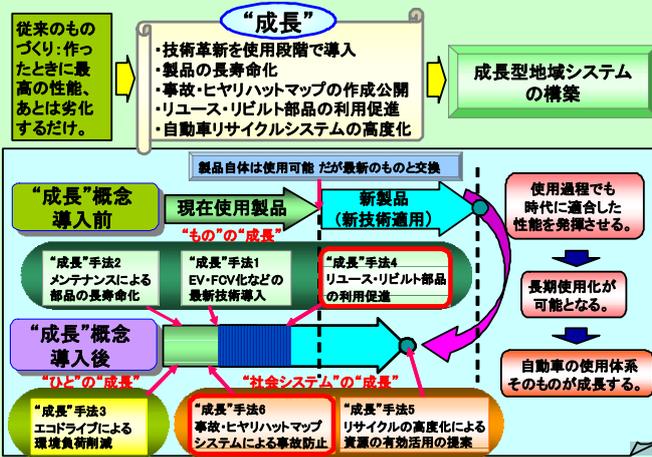
- ・“ひと”“もの”さらには“社会システム”を成長させる手法を探る。
- ・ユーザーによる事故・ヒヤリハットマップの構築により、安全安心な社会システムの持続的成長を図る。
- ・リユース・リビルト部品の利用促進や適切な整備で“もの”の成長を通して、エコユーザーを育成する。

“成長”の概念

➢ “成長”の概念とは、製品の使用段階において、その時点での最新技術の導入による環境負荷の削減やリユース部品の利用による製品の長寿命化などを検討することである。それを自動車を取り巻く社会システムに導入し、高度化を図る。

成長の概念図

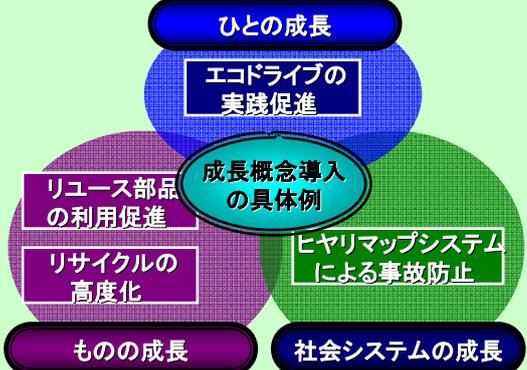
製品の長寿命化から使用体系の成長へ



研究目的

サステナブルユーザー育成を目指す

自動車に係わる
ひと、もの、社会システムの“成長”



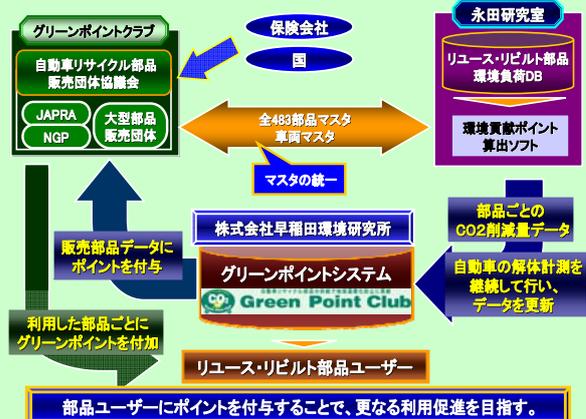
TAH-Mapシステムの構築

公開と事例の運用について



環境貢献ポイントの拡張を目指した

自動車の使用体系の提案



結論

- 収集事例の増加と事故ヒヤリハット事例の体系化を目指すために、道路形状による分類方法を検討した。
- 道路形状による分類のうち、その他特殊形状と分類された道路で他の類似地点に改善案が応用できるものについて道路形状や原因や改善案を検討し、体系化した。
- GooglemapをフォーマットとしたTAH-Mapの作成公開について検討した。
- 新品部品製造時と比較したリビルト部品のCO2削減効果を算出可能とした。
- 適切なメンテナンスをすることによるCO2削減効果の実験を行った。